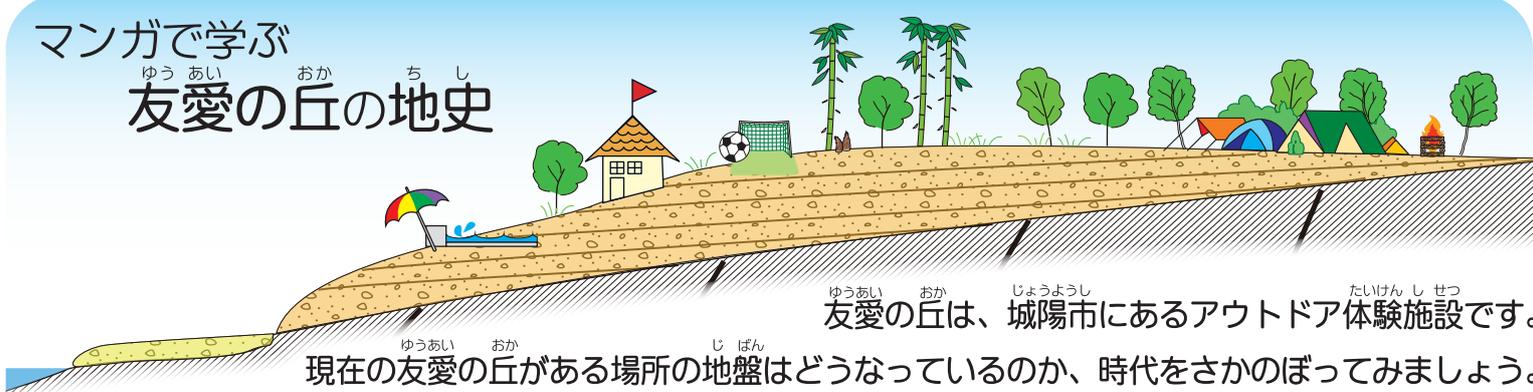


マンガで学ぶ 友愛の丘の地史

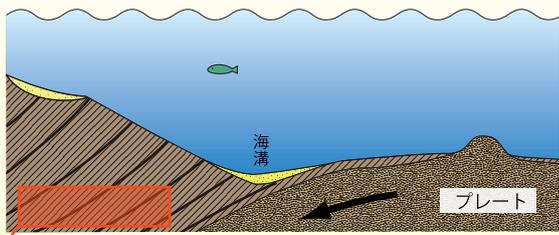


友愛の丘は、城陽市にあるアウトドア体験施設です。

現在の友愛の丘がある場所の地盤はどうなっているのか、時代をさかのぼってみましょう。

2億年前 (中生代ジュラ紀)

友愛の丘の地下にある岩石は、2億年前ころに海のプレートにのって遠くからやってきた海底の堆積物¹⁾でできています。これらが、海溝まで来た時、プレートに押しつけられて、東アジアの大陸の一部になりました。

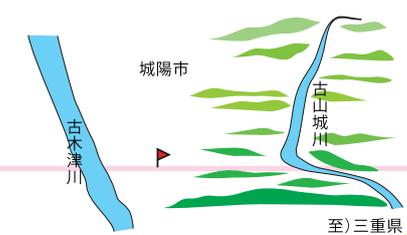


断面図

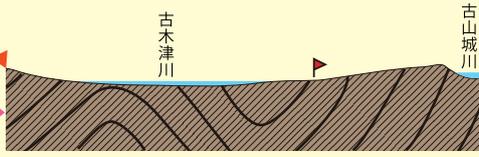
- 1) 堆積物… 地表の風化によって、礫や砂などが特定の場所に積み重なったもの。
 - 2) 扇状地… 河川が山地から平野や盆地に移る際に見られる、土砂などが山頂を頂点として扇形に広がった地形。
 - 3) 丘陵地… 高度は300m前後で、緩やかな斜面と谷底をもつ地形。
- ▶… 友愛の丘付近の位置。

300万年前 古山城川の時代

位置図



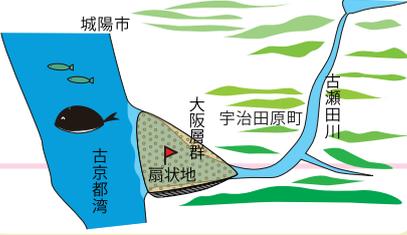
300万年前は琵琶湖が現在の位置にはなく、三重県の伊賀市付近にありました。このころはまだ、城陽市の東側の山は低く、丘の間を古山城川が北から南へ流れていました。このころの城陽市は、山と川がほとんどであり、地形の高低差もあまりありませんでした。



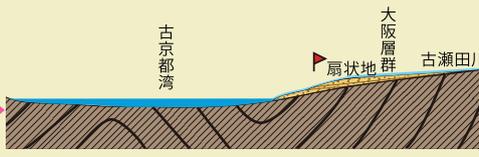
断面図

200～100万年前 古瀬田川の時代

位置図



このころは琵琶湖が現在の付近にあり、琵琶湖から古瀬田川が南へ流れていました。古瀬田川は宇治田原町のあたりで西へむきを変えて、城陽市付近で海に流れこんでいました。ときどき海面が高くなって、海水が京都盆地や城陽市付近まで入ってきました。城陽市の東側の丘を作っている地層は、古瀬田川が運んでできた扇状地²⁾の堆積物です。この堆積物が現在の大阪層群です。



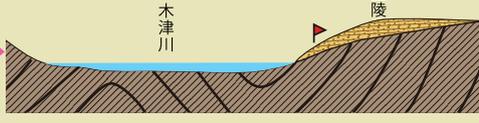
断面図

20万年前 宇治川の時代

位置図



琵琶湖から流れ出した瀬田川は、南側の山地が高くなったため、南側に流れることができなくなりました。瀬田川は、西にむかって宇治川に合流して、宇治市の方向に流れるようになりました。



断面図

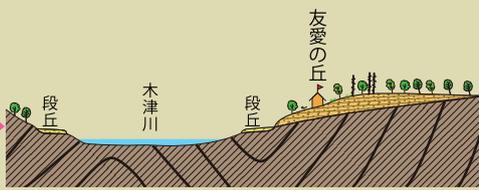
城陽市の東側の山も高くなり、古瀬田川が土砂を運んでできた扇状地は丘陵地³⁾となりました。

10万年前～現在 段丘の時代

位置図



城陽市の東側の山はますます高くなって、瀬田川はせまく深い谷となりました。また、木津川が谷をけずったため、東側と西側の土地が高くなり、平らな面と急な崖が階段のように繰り返される段丘とよばれる土地が形成されました。



断面図

<参考文献>

- 地学団体研究会京都支部 (1990)「新京都五億年の旅」法律文化社
- 脇田浩二ほか (2012)「京都東南部地域の地質」地質調査所
- 尾崎正紀ほか (2000)「奈良地域の地質」地質調査所
- 平朝彦 (1990)「日本列島の誕生」岩波書店